

科目		受験生記入欄	
国語古文(邦楽)	二枚のうち一枚目	専攻科 楽器	受験番号 番
		(ア)	(イ)

問 次の文章は『源氏物語』「末摘花」の一節です。末摘花の許で一夜を過ごした光源氏が、朝の景色を前に末摘花の姿を初めて目にする場面で、二人の周囲には末摘花の女房たちもいます。これを読んで以下の問いに答えなさい。

この部分につきましては、著作権法上の関係から掲載することができません。

第一問 文中の「からうして明けぬるけしきなれば」く「あながちなる御心なりや」までを、動作主体等を明らかにしながら、現代語に訳しなさい。

第二問 文中の傍線部「普賢菩薩の乗物」とは何か、答えなさい。

第三問 末摘花は、他の姫君とは異なって、文中にあるような容貌であるにもかかわらず、生涯源氏の庇護を受けて暮らします。このような登場人物が配置されたのはなぜか、あなたの考えを述べなさい。

二〇二四年度 東京芸術大学 大学院音楽研究科(修士) 入学試験(開題・解答) 用紙

実施日時：二〇二三年九月二十三日(土・祝)

十三時〇〇分～十四時三〇分(一時間三十分)

国語古文(邦楽)	科	受験生記入欄	受験番号
二枚のうち二枚目	目	専攻科 声種 楽器	番

(ア)

(イ)

第一問

第二問

第三問